

令和3年度第1回まちづくり懇談会

「小室地区連絡協議会」

1. 日 時：令和4年2月13日（日） 午前10時30分～11時30分
2. 場 所：小室公民館
3. 【議題】
 - ①小室を25番目のコミュニティに
 - ②北千葉道路計画の中で小室のフルインターチェンジの建設に関して、関連して小室駅南側通路設置および周辺の都市計画、小室町全体の都市計画象について
 - ③小室の貴重な遺跡を将来に顕彰できる保護策

○団体

1つ目は25番目のコミュニティということで、船橋市は24のコミュニティで構成されている現在から、我々が新たに25番目のコミュニティとして承認をいただきたい。

小室は千葉ニュータウンの1期として、理想郷のような自然豊かな大変恵まれた環境の中で全ての施設が整った素晴らしいまちであると思います。

我々が入居した頃の社会と今の社会はもう想像もつかないぐらい変化しております。小室の人口はそれほど大きな変化はないけれども、高齢化は異常に進んでいます。

小室町は千葉ニュータウンの一角であるとともに、船橋市のコミュニティの1つとして光り輝く状況をずっと後世に残したいということで、10年程前から準備にかかり進めてきたのがこの独立問題です。

自連協でも受け止めていただいて、この独立問題に関する専門の小委員会を作っていただきました。

ただ現在、この2年間はコロナでその状況が全然進んでおりません。この機会に市長さんのお考えやこれからの進め方について、皆さんと意見交換をしていただくのが大変有効かと思い、第1テーマにさせていただきました。

このテーマについて、市長さんの受け止め方というか、お考えを聞かせていただいてよろしいですか。

○市長

まず、おはようございます。市長の松戸でございます。今日は小室地区連絡協議会の皆さんとこうした形で話合いが持てることを心から御礼を申し上げます。

それでは着座にて、先ほど会長のほうからお話のあったコミュニティについてお話しをさせていただければと思います。

このコミュニティについては、10年以上前から小室地区の独立した地区コミュニティを形成したらどうだという動きがあったことは十分承知をしております。

この間、自連協のほうからもいろいろお話もあって、以前コロナの直前だと思えますけれども、前の地区連会長さんがお見えになって、やっぱりコミュニティとして活動していくためには民生委員や青少年相談員などの制度ボランティアの確保を地区の中で構成し、1つの日頃の全体の活動ができるような形を作っていく必要があるということで、お話があったと思います。

今、船橋でコミュニティが最後にできたのは坪井地区です。坪井地区も豊富のほうから独立をしました。新しいまちができてた中で地区連と協議を重ね、これまでやってきた全体のコミュニティの中の地区社協の在り方等を十分協議し、最終的にいろいろな要素をお互いに確認し、独立した経緯がございます。

小室地区は、ちょうど16号線で分かれていますけれども、例えば福祉まつりも小室中学校でやったりとか、豊富地区の皆さんと連携した中でこの地区が形成されてきた経緯がありますので、私としてはこのいろいろな要素を、ハード的な要素は整っていると考えております。豊富地区連の皆さんと改めてどういった形で連携していくのか、お互いにどうやって補い合うのか、やり取りしていただいて、整理してもらえればと思います。

小室だけがよくなる、また小室が抜けることで弱体化するとかそういったことではなくて、北部エリアの中で子供たちのためにも、また高齢者の皆さんのためにも連携をしていくということが1つ大切な要素だと思うので、その辺をぜひお話をし、整理をしていただければと思います。

市として、ここを市のほうでトップダウンで分けます、ということはあまり私は好ましくないで、その辺の整理をぜひしていただければと考えております。以上です。

○団体

はい。ありがとうございました。皆さんの中で御発言の方がいらっしゃいましたら、お願いします。

○団体

今、市長からの御発言の中で豊富地区連合町会からの分離独立がいいのではないかということで、実は私、平成19年から豊富地区連合町会の副会長をやっております。19年、20年、21年と小室町会長もやっておりました。25番目のコミュニティということで坪井さんが独立するときでした。

その中で、コミュニティとしてどうしなきゃいけないかということで、前の自連協会長ともお話しをしまして、要は町会、自治会でまず1つ。そして民生、児童委員でボランティア制度で1つ。豊富地区の社会福祉協議会も各コミュニティに1つずつありますので、これも24個あるんですね。ですから、基本的によく言う3点セットと言われる3つが一緒になって小室地区が独立をされるのがいいんじゃないかと。そうであれば問題ないよと。

豊富地区連合町会の立場としては何の問題もありません。町会自治会もそのまま今、これだけ会議を毎月やっていただいていますので、豊富連合町会が小室地区連が独立するに当たって支障は、全くないです。

地区社会福祉協議会もそれぞれボランティア制度が、小室には小室のボランティア制度、豊富には豊富のボランティア制度があるので、独立するには何の問題もありません。会長の私が言うのもなんですけど、小室地区社会福祉協議会が立ち上がっていただくのがベストじゃないか。地元の方たちのボランティアが地元の方たちを支えるということで、これも実は問題ないです。

実は先日、豊富地区の民生、児童委員会の副会長の方とこの件で、話をしました。基本的には何個かの町会を担当する個人事業主みたいなイメージでやっていますので、小室と豊富が分かれて活動するのは何の問題もなく、小室地区連絡協議会のほうで民協と地区社協をしっかり立ち上げて、それぞれ会長を立

てていただいてやっていただければ、いつでもコミュニティとしては成立するんじゃないかなと思っております。

手前事ですけれども、豊富地区社会福祉協議会においては、昨年从小室地区が独立されてもいいように、全日食の飯島ストアがあるんですが、あそこの隣に小室の地区社会福祉協議会のボランティアの方たちが活動できるように

「きらら」という活動拠点を去年の8月に設けました。申請をして船橋市より助成金（家賃）をいただいて、活動しております。残念ながらコロナなのでなかなか受け入れはできませんが、基本的には月曜日、木曜日に生活支援コーディネーターを置いて相談体制をとっています。

先日も半日いましたけれども半日の間に七、八の方が立ち寄っていただいたり、御相談があったりということで成り立ってはいます。後は、小室地区の地区連の会長さんと、民協の役員、地区社協のボランティアの三者で独立についてお話していただければと思っております。豊富地区の連合町会としては何の問題もないことを市長にもお話ししておこうかなと思ひまして発言しました。

○市長

ありがとうございます。今、地区連として独立することについては異存がないというお話でした。

1つのコミュニティを独立するとき、制度ボランティア、例えば民生委員とか青少年相談員とかその地区の中でそれぞれが自分たちのエリアのところは、みんなで協力し合って、1つのコミュニティを支え合える体制を作ろうと24コミュニティそれぞれやっております。以前、小室地区連絡協議会の会長が私のところに直接お見えになったときにお話ししたんですけれども、地域の中でそういった人たちをみんなで選出をして、しっかりみんなで継続してやっていけるねと、それが基盤になりますので、地区連としてそういった地区社協のほうでもそういった拠点の準備もされているということですので、今後この連絡協議会の中でお話し合いをしていただいて、準備ができれば、別に異存はありませんので、話を詰めてください。

役員だけではなく、住んでいる皆さんといろいろなコミュニケーションをとっていただければと思ひます。

○団体

ありがとうございました。問題なのは無理やり何でも分かればよいということではなくて、この小室町というのは千葉ニュータウンの一角で、千葉ニュータウンの一員であるということが生活圏の中にもう40年溶け込んでいるわけです。

小室は船橋市の外れで、千葉ニュータウンというのはほとんど日常では頭の片隅にもないふうに思います。

小室の抱えているいろいろな諸課題というのは小室だけが背負って、小室だけが一生懸命、打開策を探して解決に向かって努力をしているというのがこの40年なんです。

もちろん協力がなかったということではありません。我々が要望したものについては、丁寧に受け止めていただいてちゃんと回答は頂きます。けれども、我々の感覚とやはり回答とはずれています。それは当たり前です。我々は生活している立場でものを言っているし、回答する側のほうはそういう知識がありません。そういうことで違っているというのは、これはもうしょうがないと思います。

北総線の高運賃の問題だとか、北千葉道路の開通の問題だとかは、直接この小室住民でないと分からないことだらけなんですね。

ここを何とか我々が一体となって今は現在9つの町会、自治会という自治体で構成された町になっています。ところがこの地区連絡協議会というのは、その9町会、自治会を代表するものではなくて、あくまでも連絡協議会であって、夏祭りをやったりとか、小室町全体の行事だとかをみんなで協力してやっている立場なので、これは行政と直結していないんですね。

だから何をやるにしても、小室地区連絡協議会というまちを代表する団体が窓口になっていないという齟齬がもう40年続いているわけです。これを何とか打開するにはどうしたらいいか。これはもう独立するしかないね、という話なんです。

もちろん御発言あったように、いろいろな団体、制度ボランティアを含めて、小室ではそういう独立するのと同じような活動を40年やってきているんです。民生委員だって社会福祉の活動だって、ただ組織ができていないのは、そういう認められていない形で、今までなっているという、ちょっと矛盾するところ

があるのですが、そういう問題が根っこにあるのでこの問題の中身が非常に複雑になっているというふうに私は感じています。

今すぐということではなくても、将来の子供たちがこの小室を背負っていくようなまちになっていく、その方向を今つくっておきたいというのが提案の根本的な考え方なので、この点について市長のお考えはいかがでしょうか。

○市長

小室のことを市は全然意識していないことは、決してそんなことはなく、これだけ1つのコミュニティに、公共施設、出張所などが、整備されているところは、ないんだということを皆さん御理解を頂きたいと思います。

例えば北総線の話もありましたけれども、表には出ていませんけれども、私は北総線の社長とこの間、数回会っています。やっぱり東葉高速のことがあり、北総線のことがあり、こちらのほうでは気を配ってきている。また、船橋の南のほうで、ミュージックストリートという音楽イベントをやっています。私は彼らに、あの音楽イベントというのを、小室の公園でもできないかって、私から直接声をかけて、地元の皆さんが音の問題を気にしないでやってくれるのだったら協力しますという、私は逆に距離が離れている分、ある意味高根とか、中央部の人たちに言われるぐらい、こっちのほうには気を配っていることだけ誤解のないようにしていただければと思います。

コミュニティというのは、例えば地区連があるからそこで認めるとか認めないということではなくて、その地域の皆さん全体の思いというのを結集をすることが大事なんです。コミュニティで独立したから、今までとは違ってもっといっぱいいろいろなことを聞くとかではなくて、地域の皆さんの総意というものを、どうやって集約をして市のほうに届けていただけるのかということですね。あとエリアの中で地区連、地区社協含めて1つの独立した運営ができているということが非常に大事なことであります。市としては地域の皆さんの一体感とか総意が整えば、自連協と協議をしながら、その独立に向けたサポートはしていきたいと考えております。

○団体

ありがとうございます。

次のテーマに移りたいと思います。次は千葉ニュータウンとして整備された町の再整備ということで、船橋の小室駅南側通路設置に伴う新たな都市計画ということです。

これは3年程前に小室地区連では、北千葉道路対策委員会というのを設けて北千葉道路に関連する小室駅の南側通路の新設とその周辺の開発についていろいろな都市計画課の方々とか、いろいろなところで意見交換をしながら現在に至っております。

北千葉道路も小室の料金所までの着工が既に行われていて、測量が開始されています。小室の南側のこれから先のことを考えると、今の464号線から16号線に出入りできるランプ、上下とも4本が整備されるのに関連して南側の都市計画の変更を検討してほしい。小室が南に開けることにより、アンデルセン公園が開けるような構想を進めていっていただきたい。

お隣の白井市では、都市計画が10年前から進んでいて、現在見直しも終わって市役所からつながる464号線沿いに東京電力の東電不動産が6万平米にのぼるデータセンターを進出することが決定している。そういうことを横目で見ながら、我々は南口にも通路もない、開けていないという先が見えないという、これはやっぱり非常にジレンマになっています。

464号線に関連して我々ができることとして、16号線にかかる4つの上下線、ランプの名称を「小室ランプ」じゃなくて、「船橋小室ランプ」にしてほしい旨の要望を県の建設本部長に受理されています。そういうことで、できることは、我々一生懸命やるんですけども、やはり南側の開発というのはいろいろな規制があったり地主がいっぱいいたりということなんですけど、最初のところはやはり市の音頭が必要だというふうに感じています。このことについて、市長のお考えをお願いします。

○市長

この北千葉道路で小室のところにインターができるというのは、このエリアにとって非常に大きな、将来的に変化させる要素になってくると市も十分それは考えています。

ただ今の時点で、都市計画は、小室の北側は市街化区域として住むための区域ということで今まで位置付けられていて、南側は農業振興地域ということで

市街化調整区域なんです。ある程度、住宅のできるところをコントロールしながら、農地を守っていくという位置付けでずっと来ております。

唯一この近くでハイテクパークだけは市街化区域になっていますけれども、それ以外のところは、農業振興地域ということでこれは国との協議の中でずっと船橋全体を見たときに農地をどうやって確保をしながら都市化とバランスをとっていくかという決め事がまずあります。

ただ今後、北千葉道路ができたときに、今のままでその要素がずっと推移していくかどうかというのは、これはかなり長期的な視点で、船橋の町全体の中でどこに自然を残して、どこに家を配置をしていくかというところのこのバランスをとっていく必要があります。

南側の自然のところに、今の時点で通路を作り、何かが乱雑にスプロール化してやっていくことが、本当にこのエリアのためにいいのかというと、それはそうじゃなくて、やはりコントロールしていく必要があります。

今、北千葉道路の松戸から市川のところが工事区間に入っていますけれども、これはスケジュールをちゃんと見ながら都市計画というのをやっていかないと、例えば先に市街化区域に編入なんかしちゃうと、先にもう家が張りついちゃってそこを市が、その土地を全部、常に市の土地で買えるわけではないので、そうすると非常に乱雑な町ができてしまいます。

ですから市としては、その辺をコントロールしながら都市計画のマスタープランの中で最初の10年、その先の10年という形でエリアを決めながらまちづくりを形成していくほうが望ましいと思います。この新しいインターができるところで土地の活用の仕方というのは、当然これから変わってくると思いますし、また農家の人たちの考え方もいろいろ変化があるかもしれないので、今だけではなくて50年後の子供たちのために、どういったまちを作っておくほうがいいのか時間をかけてやっていく考えになります。決してこのインターのところ、今こうなっているから全然まちづくりが進んでいかないとかっていうことではなくて、非常に長いスパンで見て都市計画を行っていく考えでおりますので、ぜひ御理解いただきたいと思います。またインターのできかた、道路のこととかいろいろ御指摘いただいておりますので、事業者のほうと、県とか国とかいろいろ話をしながら船橋のこのエリアにとって一番いい形というのを

こういった形で形成をしていくのか、地域の皆さんと改めていろいろな話合いを持ちながら進めていきますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○団体

ありがとうございました。

住んでいるところでは、霊園ばかりで、地元住民は不安に思ひうわけですね。この辺は、長期的に取り組んでいく考えがあることは、やはり住民の皆さんにも伝わるように情報の共有が必要かなと感じておひります。ぜひ、前向きに小室の南側の発展、小室というよりも船橋の北側の発展を計画的に将来にわたって継続的に進めていっていただくようにお願ひしたいと思ひます。

ほかにこの件について発言をお願ひします。

○団体

今、小室ランプ建設の話がでたので、関連してお願ひがあります。小室駅南側一体のまちづくりと同時に国道16号線と464号線交差のランプの建設を早くしてほしいということです。理由はまず、現状、朝5時過ぎから夕方7時頃まで多くの大型車両が小室住宅街の中を通過しています。印西牧の原方面の発展により、県外ナンバーを含めトラックやトレーラーなどが急に増えています。

問題点は、小室住宅街の中を大型車両が多く通ること、騒音や安全が脅かされています。小中学生の通学や高齢者が公園方面に行くためによく渡る道路です。

それで解決策としてまず1つ目は、先ほど言った16号線と464号線の交差のランプ建設を早める。ただこれは県に話を聞いても10年15年後、いつになるか分からない。それで、2つ目の解決策、北環状線の早期全面開通、これが重要だと思ひます。北環状線、いわゆる県道189号線ですね。今、白井市の清戸のところまでは開通、2016年2月に小室のほうから4車線開通しています。そして2017年7月には未開通区間である皆さん御存知のS工業の南側を掘割、擁壁工事を行いましたがおひその後5年間は工事が完全にストップしたままです。

国道464号線のバイパスでもある北環状線が全面開通すれば多くの大型車両は北環状線を通ることになり、464号線の渋滞緩和になります。ここはぜ

ひ、県に対して北環状線の早期全面開通を働きかけていただきたいというお願いでございます。以上です。

○市長

はい。今、お話しがあった件は市としても住宅街の中にやはり車両が入り込んでいることは問題だと捉えております。

現状の確認をもう一度させていただいて、望む声が多くあがっていることを県に伝えていきたいと思えます。

先ほどおっしゃったようにランプの建設、かなり先になってしまうので、ただそのときの16号線のあたりの作り方というのは、やはりこっちの流入車両がないようにということで要望を今しているところでもありますので、それと併せて要望はさせていただければというふうに思っております。

また具体的に困った点があれば警察と検討させていただければと思えます。

○団体

ありがとうございました。北千葉道路に関連しては、我々が一番心配しているのは北のほうにはもう伸びる余地がないので、南側のほうの展開が非常に注目的であるということ。それから464号線が成田と直通するようになったときに、非常に交通量が増え、周辺の道路もやはり混雑をしてくる。やはり住民にとってみれば、生活に非常に影響があるということになりますので、今後とも時間をかけて取り組んでいくようにしていきたいと思えますし、市のほうは市のほうの立場で活動をお願いしたいと思えます。

○団体

船橋に住んで30年経ちましてもうすぐ定年間近なんですけれども今、北千葉道路の話で、多分あと20年ぐらいかかると思っているんですね。それより今現状が、この小室地区というのが価値が下がっていると思うんですね。

千葉ニュータウンの中で今、テレビでよく出る印西とかが住みやすいまちだとか言われてすごい発展しているんですけれども、小室地区だけ取り残されているんですね。直近の都市計画を知りたくて、例えば変な話、今この町はスーパーもない、ちょっとした大型スーパーもないだけに、実は引っ越しをしようかと思えます。要するにこの地区に住んでいるので印西か白井にですね。やっ

ぱり物件を売ると思うと、小室地区ってすごい安くなっちゃうんですね。もう価値が低くなっちゃう。でやっぱり白井とか印西のほうが当然、年代も同じでもちょっと高い。

だんだんその魅力がなくなってくる町になりかけているので、その南口というのもあるんですけど、南口は、今作ったところで何もないので、価値はないと思っているので、もっと整備されないとね。で、アンデルセン公園に行くのだったら、三咲の駅をもっとよくしてもらって、ぼんぼんピストン輸送で出ていくほうがいいと思っている。あと5年、10年ぐらいはね、どのようなことを考えているのか。

○市長

まず、これはまちづくりの作り方の話になると思いますが、基本的に市はインフラの整備をして、そのエリアの住んでいる方の住環境を確保するところです。その価値を上げるとか下げるとかっていうのは、住んでいる方の幸せ度によって売るため、その土地を売るためにまちづくりを進めるというのは、これは税を投入してやる考え方ではないので。

○団体

もちろん納得しています。

○市長

ただ1つ、今、お話しいただいた中で例えばさっき、スーパーの話がありました。駅の近くのスーパー、私も非常に気になって一度再開したけど結局駄目だったんですけども、生活インフラ等の誘導というのは、ただ行政が誘致をするわけにはいかない。そうすると何が必要になってくるかということと地域の皆さんがこのまちの中で完結しようと。だからなぜあそこのスーパーが成立しなかったのかということとその要因があるんですね。だからそういったところでさっき言った音楽のイベントだとか、このまちがすごく自然の環境があって楽しみ方もあるんだよというようなところのソフト面での充実の仕方というのは、十分留意をしてやっていきたいと思います。

もう1つ、今、市の都市計画のマスタープランというのをやって、また皆さんに広く意見をお伺いする形をとりますので、そのときにぜひ、そういった声

をこの地域の中で、いろいろな方がそれぞれの思いを寄せていただけると、その修正等を反映していくことになるのでぜひお願いしたいと思います。

ちょっと具体的な答えが、価値を上げるためにどうするかということには、つながりませんけれども、ただ住んでいてここはいいところだよ、とみんながもっと思っていたらいいようなそういった要素はどんどん加えていきたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

○団体

ありがとうございました。

もう時間もわずかしかなかったため、第3のテーマに移ります。この小室の歴史的な問題については地区連でも40周年記念冊子で十分に紹介をさせていただいて、住民の皆さんにも御理解いただいていると思います。

この小室の歴史が分かるようなものをみんなの見えるところに置きたいと思っています。例えば、小室の駅前のロータリーに小室の全体図をつけて、この小室の歴史が一目瞭然として分かるようなその案内図みたいなものを立てると。そうすると小室の駅を通る人はみんな誰もが、そこを見れば小室がどういう場所か分かる。JRの松山駅を降りますと、正面に正岡子規の句碑が立ってるんですけど、その横にでっかい看板があってそこに松山の図面があって案内しているのです。そういったようなものを将来に残していけば、小室がどういうまちであるかというのは何かほかのものを作るよりも安くてできやすいかなというふうな、1つの案として考えています。このテーマのことについて市長の考えをお願いしたいのですが。

○市長

小室は古墳群があったり歴史的にも遺跡があったりとか、県の指定文化財の獅子舞があったりとか、もともと非常に歴史のあるエリアです。40周年のときに小室中学校の生徒の皆さんがバイオリン形土偶の話とか、この地域のこともしっかりと発表してくれていて、私は非常に心強く思いました。

今、お話があった、駅に降りてすぐ、小室のエリアがどんなところなのかという案内というのは、工夫できるか検討させていただければと思います。船橋そのものが遺跡のまちであり、例えば高郷小学校は、日本でも有数の集落跡が

見つかったところで、青森の県立の歴史博物館では以前、高根木戸遺跡の写真がどんと貼ってあるぐらいのところでした。

一つには今、市のほうで考えているのは学校で子供たちにその歴史をしっかりと知ってもらい、ふるさととして、こういったところで育ったことをしっかりと教えていくことがひとつです。

もう1つは新年度の遺跡のマップにしっかりと掲載し、いろいろな人が手に取りますので、それを知ってもらう。例えばバイオリン形土偶は、パリにも行った有名な土偶ですけれども、そういったものがここから発見されたことをしっかりと資料としていろいろな方に見てもらえるように、手に取ってもらえるようにするということがひとつです。

最後に松山は、観光の町なので多分そういった面で看板があり、松山のほかのところに行ったらそういう看板がないんじゃないかと思うんですけど、ただ小室のところでは、「バイオリン形土偶の見つかった町」とかですね、何か工夫はできるかもしれないので、それはちょっと市の担当のほうといろいろやらせていただいて、このエリアの人たちが誇りを持てるような環境は作っていきなたいなというふうに思います。

○団体

ありがとうございました。これで3つのテーマ、時間がちょうどまいりました。十分に御意見を頂いたことにはならないかもしれませんが有意義な時間だったと思います。

— 了 —